

震災後のわが社

# LEシステム 株式会社

所在地：双葉郡浪江町

事業内容：蓄電池研究開発・製造・販売業



当社は2011年創業の蓄電池の電解液研究開発・製造会社です。本社を福岡県久留米市に置き、研究所を茨城県つくば市に設立し研究開発を進めてきました。そして、2021年9月浪江町上ノ原地区に電解液製造工場を完成させました。

～LEシステムの事業について～

■再生可能エネルギーの促進は世界の流れに

地球温暖化対策への取組みは世界における大きな課題であり、日本でも温暖化ガスの削減に向け、「脱炭素化」や「再生可能エネルギーの主力電源化」といった環境問題に配慮したエネルギー計画が進められています。

■蓄電池の必要性からLEシステムを創業

太陽光や風力といった再生可能エネルギーは気候や自然条件に左右されやすい不安定な電源であることから、電力供給の安定化には蓄電池などによる調整が必要です。

当社の代表取締役である佐藤は、バイオマスエネルギーに関するコンサルティングを長年行なってきた実績もあり、再生可能エネルギーの普及には必ず蓄電池が必要とされる時代が来るという確信を持っていました。

当社はその信念から、蓄電池の中でも安全・長寿命・設計の自由度といった優れた特性を持つバナジウムレドックスフロー電池(VRFB)に着目し、創業しました。

※VRFB(Vanadium Redox Flow Battery)とは

VRFBは、正極・負極の電位差がある液体を循環させることで、電子の移動を行い、充放電する仕組みの電池です。電解液は不燃性で、発火や爆発などの危険がないため安全かつ長期間の充放電を可能にします。また、電解液は半永久的に利用可能なため長期利用の運用コストにおいても今後の普及が期待されています。

～なぜ福島で事業を行うのか～

大きな災害を経験したこの福島の地で、雇用を生み出し、世界に向けて再生可能エネルギー促進に役立つ蓄電池の技術発信を行うことで、災害からの復興支援になればと考えています。すでに避難先から浪江町に帰還し、当社に就業されている方も何人もいらっしゃいます。

～今後の展望～

太陽光発電や風力発電など自然の力を利用した再生可能エネルギーは、世界中で導入が更に広がっていくことが予想されていますが、これらのエネルギーはとても不安定なため、発電の制御や蓄電池を使った調整が必要です。

また、災害時の備えとしても、蓄電池は重要な役割を担っています。

私たちは、VRFBという優れた特長を持つ蓄電池を世の中に普及させ、今後のエネルギー環境に貢献できるよう、事業の確立に向けて努めてまいります。